

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成27年8月7日 (NO.62)



浦幌町教育委員会

浦幌町教育研究所

小林寛佳校長先生 の講演から学ぶ



「浦幌学園カレンダー」作成

浦幌学園(平岡学園長)では、CSの取組を発信するため、A3版(表裏カラー)のカレンダーを作成し、各家庭に配布しました。

表面には、浦幌小・厚内小・浦幌中の今後2ヶ月の行事予定を掲載し、学校支援者を募っています。裏面には、過去2ヶ月間に取り組まれた小中一貫CSの実践が掲載されており、大変好評を博しています。

■8月7日、浦幌町教育文化センターにおいて、帯広市立啓西小学校の小林寛佳校長先生(前釧路教育局義務教育指導監)を講師にお迎えして、「十勝東部方面教育委員研修会」が開催されました。

演題は「今日的な教育の動向と学校改善～学習指導要領改訂とCSに期待すること～」。

講演の後半では、コミュニティ・スクールの意義や役割について、次のようなお話をされましたので紹介します。

CS推進に関する要点

- (1) CSは、単に制度や施設設備の問題ではなく、地域の未来を創る。
- (2) CS(学校運営協議会)は、地域と学校が協力して子どもの成長を支える。
- (3) 日本の人口は6年連続減少している。地域の子どもの未来を左右する。
- (4) 小中一貫教育は、CSの効果をさらに高める。
改正学校教育法の成立により、平成28年4月から「義務教育学校」が施行され、自治体の判断で「5・4」制や「4・3・2」制などを採用できる。
- (5) 小中一貫教育やCSの導入には、教育委員会や校長の強力なリーダーシップと準備が不可欠となる。
- (6) 学校や家庭、地域、行政が4つの車輪となって子どもを支え育む。その際、ハンドルを握るのは校長。校長は学校運営協議会でいただいた意見を生かし、学校を改善としていく視点が不可欠となる。
- (7) 教育委員会は、校長の情熱と専門性を支える機関であってほしい。
- (8) 学校は、CSの導入を契機として、地域に代々根付いてきた校風や伝統を引き継いでいく「土の人」の眼と、未来を担う子どもたちに新しい時代にあった力をつけていく「風の人」の眼の両方を持って学校改善を果たしていくことが求められている。